

教材開発から見える課題と その解決にむけて

入場無料

日頃の悩みを具体的に解決する
ヒントが見つかります。

2008年 7月27日(日) 10:00~17:00
東京外国語大学府中キャンパス

問題提起

10:00~10:30

「教材開発および指導者育成のための地域協力体制を
どう構築するか」

北脇 保之 (東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター長)

現場の指導者達が
分科会のスピーカーを
務めます。

各分科会では
質問時間も
十分に取ります。

分科会

(分科会は同じ時間内に2つずつ行われます。それぞれの時間帯につき1つずつお選びください。)

10:45~12:15

1. 「ブラジル人コミュニティとの教育に おける連携」

当事者からの声を通じてコミュニティ内での教育課題やコ
ミュニティとの連携のあり方について考えます。

2. 「使ってください！領域別系統表

—系統別に指導できるトッカーノ算数教材を例に—
指導例を紹介しながら外国とつながりのある子どもへの効
果的な算数指導方法を探ります。

13:15~14:45

3. 「分散地域における教材開発を含む 教育支援システム構築に向けて」

人材不足、予算不足、問題認識不足等で悩む地域において、
どのような支援システム作りが可能なのかを探ります。

4. 「集住地域における教材開発を含む 教育支援システム構築に向けて」

外国とつながりのある子どもたちの多い学校や地域での支援シ
ステム構築について、具体的な事例を参考にしながら考えます。

全体会

14:55~16:55

分科会報告・パネルディスカッション

「現場から浮かび上がった諸課題を
どう解決するか」

パネリスト

大森 摂生 (文部科学省初等中等教育局国際教育課長)
石川 和男 (浜松市教育委員会指導課長)
石田 成人 (群馬大学大学院客員准教授 (教職専門大学院)
・ 邑楽郡板倉町立東小学校長)

コメンテーター

佐藤 郡衛 (東京学芸大学国際教育センター教授)
大藏 守久 (財団法人波多野ファミリスクール理事)

懇親会

17:15~18:30

参加費1000円

主催 東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター
協力 三井物産株式会社



在日ブラジル人児童むけ
教材開発プロジェクト



国立大学法人東京外国語大学

各会の詳細、申込み方法は裏面をご覧ください。

10:45~12:15

1. 「ブラジル人コミュニティとの教育における連携」

外国とつながりのある子どもたちの教育のための協力体制を築く上で、子どもたちの親や家族、そして外国人コミュニティの果たすべき役割は極めて大きい。ここではブラジル人コミュニティを例として、外国人自身の取組みと連携した地域の協力体制づくりについて考える。

まずブラジル人の立場から、子どもの教育に関する意識やブラジル人コミュニティの教育のための取り組みの現状、および地域社会に望むことを発表する。続いて、地域社会においてブラジル人に学校や教育の仕組みをどう伝えるか、教材の所在をはじめ、教育に関する情報リソースをブラジル人コミュニティとどう共有するかなどの課題を議論する。

金城ジゼレ (静岡文化芸術大学生)
坂本久海子 (NPO法人愛伝舎代表)
フジタアルジェノ (Portal Mie社長)
山野上麻衣 (元浜松カナリーニョ教室指導員)

2. 「使ってください！ 領域別系統表 —系統別に指導できるトゥカーノ算数教材を例に—」

教科書は学年別で構成されており、それまで異なるカリキュラムで教育を受けてきた外国とつながりのある子どもに対して指導をするのに適さないことがある。一方、系統別(トゥカーノ算数教材の場合、「掛算」、「割り算」等)に構成された教材であれば子どもの未習得の箇所、あるいはつまづいている箇所を指導者が発見し、そこから短期間で必要な知識を得ることができる。また、一般の教科書を系統別で指導するために、その順序をわかりやすくまとめた「領域別系統表」を指導者へのツールとして提供する。そしてこうした教材を学校現場で実際にどのように活用して行けばよいかを実践例を通じて紹介する。

市川昭彦 (群馬県大泉町立東小学校教諭)
大藏守久 (財団法人波多野ファミリスクール理事)
藤本美知代 (三重県伊賀市立阿山中学校教諭)

13:15~14:45

3. 「分散地域における教材開発を含む教育支援システム構築に向けて」

現在、日本語指導が必要な外国人児童生徒が在籍する公立小中学校は全国に5000校以上あるが、その約8割が「5人未満」在籍校であり、そのような分散地域における課題は集住地域とはまた違うものがある。分散地域において子ども達の教育を保障していくために、どのような教材開発をし、協力体制を築いてきたかを報告する。

飯室節子 (山梨県甲府市立大國小学校教諭)
岩谷美代子 (熊本大学留学生センター非常勤講師)
大谷淳司 (島根県教育庁義務教育課小中学校指導グループ指導主事)
須藤とみゑ (広島県広島市立東浄小学校非常勤講師)

4. 「集住地域における教材開発を含む教育支援システム構築に向けて」

現在の国主導による学校教育システムは外国とつながりのある子どもたちの学力保障を想定して作られておらず、各教育現場は限られた資金、労力を駆使しながら日々の対応に負われている。こうした子どもへの教育を充実させていくために地域レベルから国レベルにわたっての教材開発を含めた支援システム構築が必須である。相対的に課題が大きく、取組みが進んでいる集住地域の事例からこの問題を考える。

植村知恵子 (三重県国際交流財団)
築樋博子 (豊橋市教育委員会外国人児童生徒教育相談員)

全体会

14:55~16:55

現在外国とつながりのある子どもたちを対象とした教材は各地域で独自の手法で開発されているが、実際に指導するにはどのような教材が必要とされているのか。またそうした教材を開発し、その教材を使用する指導者を育成するためには、教員・指導者、学校、外国人コミュニティ、教育委員会、市区町村、都道府県、国それぞれがどのような役割を担い、どのような協力体制を築き上げていくのか。教材という切り口から外国とつながりのある子どもの教育に関する課題を包括的に解決していくための方策を探る。

申込み方法

以下の申込みフォームURLからお申し込み下さい。FAXでの申込みを希望する場合は件名を「フォーラム参加希望」とした上で、お名前、ご所属、懇親会参加希望の有無をご記名の上、センターまでお送り下さい。

申込みフォームURL

<http://www.tufs.ac.jp/common/mlmc/form/>

FAX送付先

042-330-5448 多言語・多文化教育研究センター 教材開発係

問い合わせ

042-330-5455, kyouzai-forum2008@tufs.ac.jp

東京外国語大学 多言語・多文化教育研究センター

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

URL: <http://www.tufs.ac.jp/blog/ts/g/cemmer/>

